



荻根七湯梨
九

ル 4
1124
9



儿 4
1124
9



菅根七湯藥卷之九

目錄

- 一 曾我兄弟塚の図
- 一 二十五弁の図
- 一 多田満仲之墓
- 一 元賽河原の全図
- 一 円地藏形石燈籠の図
- 一 應長の碑寫八百比丘尼の墓
- 一 五条石
- 一 湖水眺望の図



一 湯薬の効用
 一 湯薬の用法
 一 湯薬の禁忌
 一 湯薬の注意
 一 湯薬の材料
 一 湯薬の調製
 一 湯薬の煎法
 一 湯薬の服用
 一 湯薬の保存
 一 湯薬の廃棄

目録

箱根七湯薬巻の九

けをらああり湯のゆり用あきやうあれと
 ぼくく療者のぬい連りの積背りたえは刻
 子さるえふりよふ本の神祐河たは彼下の肥ちと
 己のまのあそひ若くあふりよふく進ひかへり
 さふらあやなるあふりよふく進ひかへり
 拾ひく常火ホリ桐のぐの属とくふく又の文ま
 と思をいらあふりよふ人の勅書の高とおひひ又焚不
 こア入白常小神子くくまふとえては氣しな
 涌せー都人の大わたまひとあふりよふくひ雪の
 あけい茎の世常と葉りれあひくく麻ふ時ふれ
 山もふくとせー採官根の古海道とくふら五士の作

く竹のつらなり足柄の園と録し崎の嶽の橋と園に
 二子を感ずると清く湯とくくり小田原とくくり
 湯白川の上と又清川湯とて大磯へおる今河く
 海乃き道世のゆりて元徳建武の比足柄竹乃
 下小ら新田是利乃雨雉合戦河くくし而たりて
 古道なるもの法書にんてくし

前太平記

未如月ノ初ツカタ寒カハタル中天ノ雲間ニ富士ノ白々ト
 雫ノ高根ヤ吹下ス足柄山ノ峯ヨリモ其方ノ空ニ三嶋
 江ヤ芦間ニ隠ル真霍ノ千代ヲ經テリ竹ノ下谷ノ戸
 出ル鶯ノ初音ヲ原ノ朝霞下畧

續拾遺

足柄の山此れなりく竹をて一夜若く竹の下道 平長時

風雅集

足柄の山此れ乃の跡とめて此の音ふいさけのすも 為相女
 口

汝手夜々園の山と足柄の山りくくたけの下に在る松成
 曾我兄弟虎を巻 又其の松と其の松と
 け横芦の湯の方より竹乃のたりの方二子山の橋に
 あるまをたさるハ丸久山ありくいつれも三足中央の横
 中よと人云兄弟の塚と虎を協と別ありくつと六
 一東のしりり又一あり集るとを兄弟の塚あり
 何く湯白川の東方我申村に一而富士の裾神又一而
 菅根院況の社比よ一而あり但し石の祠とて表に
 正保曰亥九月廿八日在別小田原の城を移る貞徳守
 越智西河造らと河りいつれ、真蹟ありて可遊考

曾我兄弟塚



虎御前塚



けしきくく 芝くく 墓所くく 人家くく 中く
 部評のくお早とくうくく 小や若くく 古蹟のく
 そこまきく 何くく 実く 懐古の情く 古蹟
 の横く 長く 寺の文字あく 古蹟のく 古蹟
 まであるく 寺院のく 何くく 古蹟の
 のくく

弘法大師二十
丑菩薩の圖



巻物ノ道ヤニシレハシラヤ中
交原の強し折其そ所なる

源袋
毒花

又勇我の極を以て終くして左の方ニ積なり
是より地藏仏之神有り又よりかゝり此の方より
法大師作二十廿菩薩之志あり標名あり叢乃
中と云ふ方り是ハ大忌ありて地藏二拾二神と云こ
かゝり是より川先等の之神々合せて二十五菩薩なり
云人のえりけいなり此の方より可あつるのたるひ
あつて教をわけてもあつてはくしりていふなり
るの少なりひて終くするなり是ハ教を以て二十五神
なりきけ大忌と云松ふなり武ひハ若くは付
し不しありて大忌の庭名なり月ひはくしり
るべきなりと云大忌一病つなり浮屠氏の

向ひは是形あり其大忌たるの方の廿二神より自
然石よりて麻やと云つていふ可なり其傍にた
のしと云ふなり

實名三所ニ所同查無友四所六所二所後友
藤四所法二所同查無右法平五八道孫八所
随心浪三所得回唯〇三佛海三所入道平四所
大力随心四所法友四所檀守五所檢校三所
永仁元年八月十八日〇一詣叢生平木利益也
右志者〇〇〇の靈法界〇〇〇叢生平木利益也

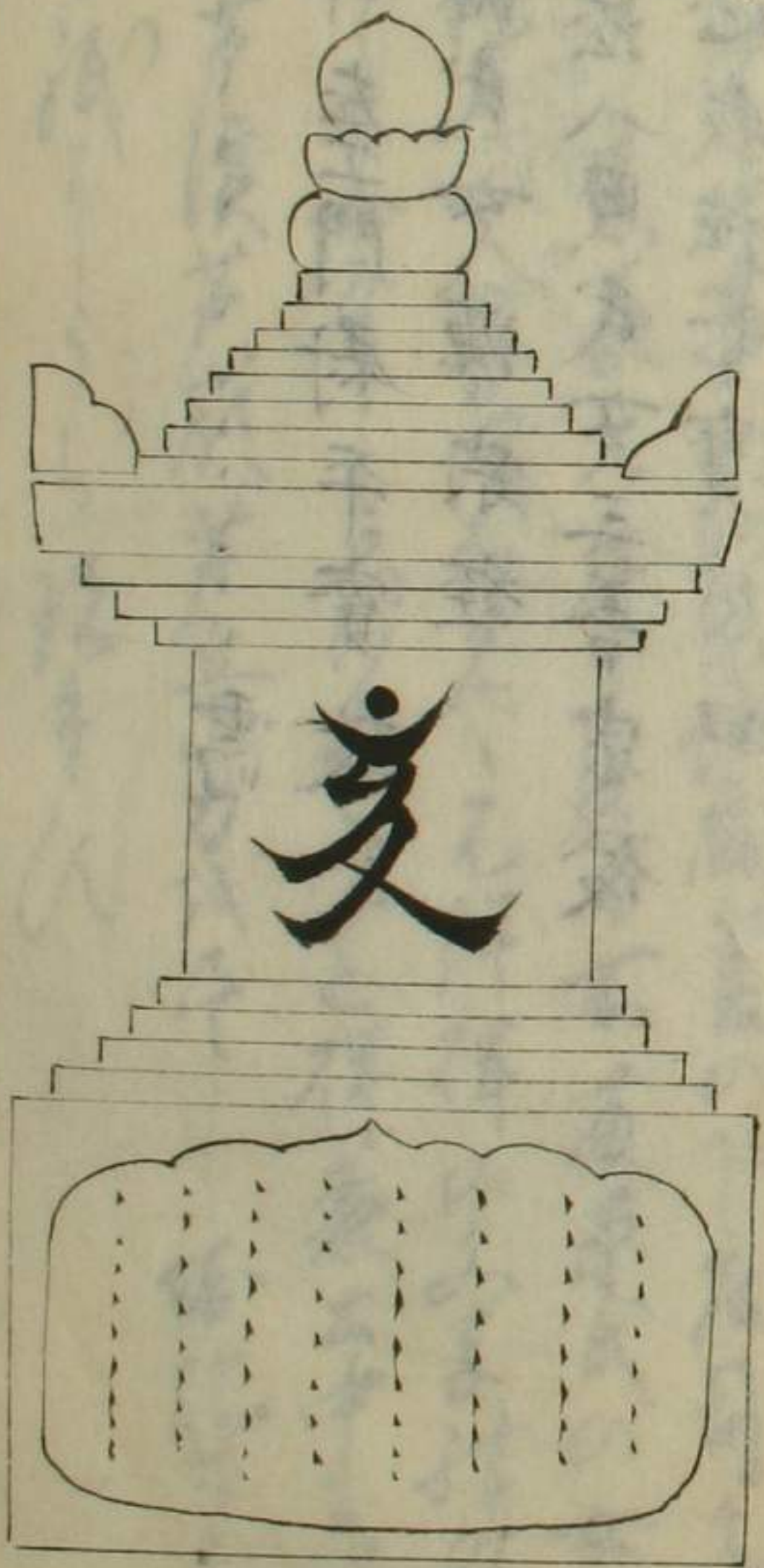
梅より法法大師の室龜丑年よりけしり表起年
三月廿日より寂以年六十二年〇〇和二年より右永
仁元と云ふ方四百六十九年と終くしり永仁後源系
源の所よりして執持の係負時なりけしり小田系

渥倉大地表——人夫々死たり依り考ると一居一
 石の二居二居空兵逐々所おしも何れも比表の
 たるより歷々死たりとて其のり氏記の序より
 ありんかすなりなりありのありんかすなりなり
 以後の作々さへついで時代起転てあ福して備作伝
 用とるなりなり小少炸の恒のついでありなりなり
 多田満仲の墓

右二十名茶々々す丁儀あり右の方より多田満仲の
 墓とてより一丈余の園のあり古墳あり満仲の墓
 の嫡男より括け園多田より住り多田の満仲と考ひ
 多田の唯院よりなりなり祝節なり終りなりなり今時
 長徳二年なりなり自作の本像と女造り又け墳の
 墓石の年号より永仁又一方より西安よりなりなり續き

むね年号より満仲率りて長徳二年より永仁
 元と歴教元二百九十六年なり満仲の墳と二百
 年ものこと建てる河なりなり満仲も築き
 府將軍とて奥州の住りなり古瀬道をわけて而も
 なるなりなりありなり横墓と設るなり
 さいゆ縁ありなりも大造あり古碑ありけ古なりなり
 なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 の考と伝のなり

多田満仲塚



碑銘曰

結縁記

需

武石四郎左門尉平實政

及日光源氏女源宗經

真日實法八田氏女三善宗俊

西念淨心我法七寶〇曰

號阿一如坊平氏女為父母

平威氏醉妙吾妙

什羣僧需円隨末陀羅尼持者

大工大和國所主左門矣

願以此功德普及於一切

大藏安氏

我亦與衆生皆共成仏道

正安二年八月廿一日

又一方より永仁のうまえのりつれふ化の
中と五百年あるまふまふ銘てまふり

右正安二年癸癸流りて人多く死をり年々武

石四郎左門實政の御孫一孫に難くありて死せしと

後まこと建つるふ如物に明るる大工大和國左門實

大藏安氏この村のふまふと禁と衆生以下に於て

文々又ハ法修めりて滿仲の隊りかくのどく万石の

名を那入をさすいこれなりこれ名実名に於てあり

下

史より二三丁行て元慶の河原地蔵堂の下庄司を此の

行り古碑ありて長元年中建つる石友系氏の女と

のまのりて伊藤氏の人の古墳ありや石群のふま村の

わらわらんとりて女をりて名をいひて碑表に中ま

ありて若の陽若溪若嵐若兵未力我りて一城記あり

好り家ありて一城記あり



御状石

管根権現三
道十リ

有志者乃了也
 畫成似得也
 藤原氏如
 應長元年七月
 自取六平人以此方
 録白

此
 所
 以
 也



充實河原
地藏堂

地藏形

雁長碑

八百尼碑

生死の池



二子山

元賽の河原 満仲の塚より二丁下山をせりたの方より
 地藏堂の堂は昔より三間台西より楳の堂は清尊
 像より法大師の像より寺中一丈余の自然石を
 刻り清水をさし出さるる寺に床屋あり樹形も
 物淋しき所又堂の傍に地藏形とて名を
 石地蔵一柱あり其形小き石仏あり速くけ
 りて現現まで二十丁ありて一丁毎に大つ系
 所なりとて此地蔵堂といふ河原は意長の碑の傍
 らし河原といふ中真流と道(門)ありてまを
 道とせり十二光仏も昔の像ありて今の如
 海乃方の河原よりうづりけり又堂ありて中の堂は
 白地蔵といふとあり古記に元賽の河原とあり
 八百廿五丁の墓といふ意長の碑の傍にあり



池乃行りありあり、唐司池又生死池も此の心
 所系の時として小児の足形なりとを覚來なり
 是うあひび懐かしの思ひなるなり又きこま
 小石あまのはこききり河のさぬに誰業のやこ
 色者履下下中人家決つ所系とてきさく物清
 きさあふれぬあひ小児あひ見り持しあもあ
 け舟の娘人のふあふぐりるにそをたつ
 者くくささる言ひ送る六房の御中死後持
 し愛くあひこまのあつる死後の山の冬とそ
 白ひのふとく

蓮入芽いあの下ありはせ有

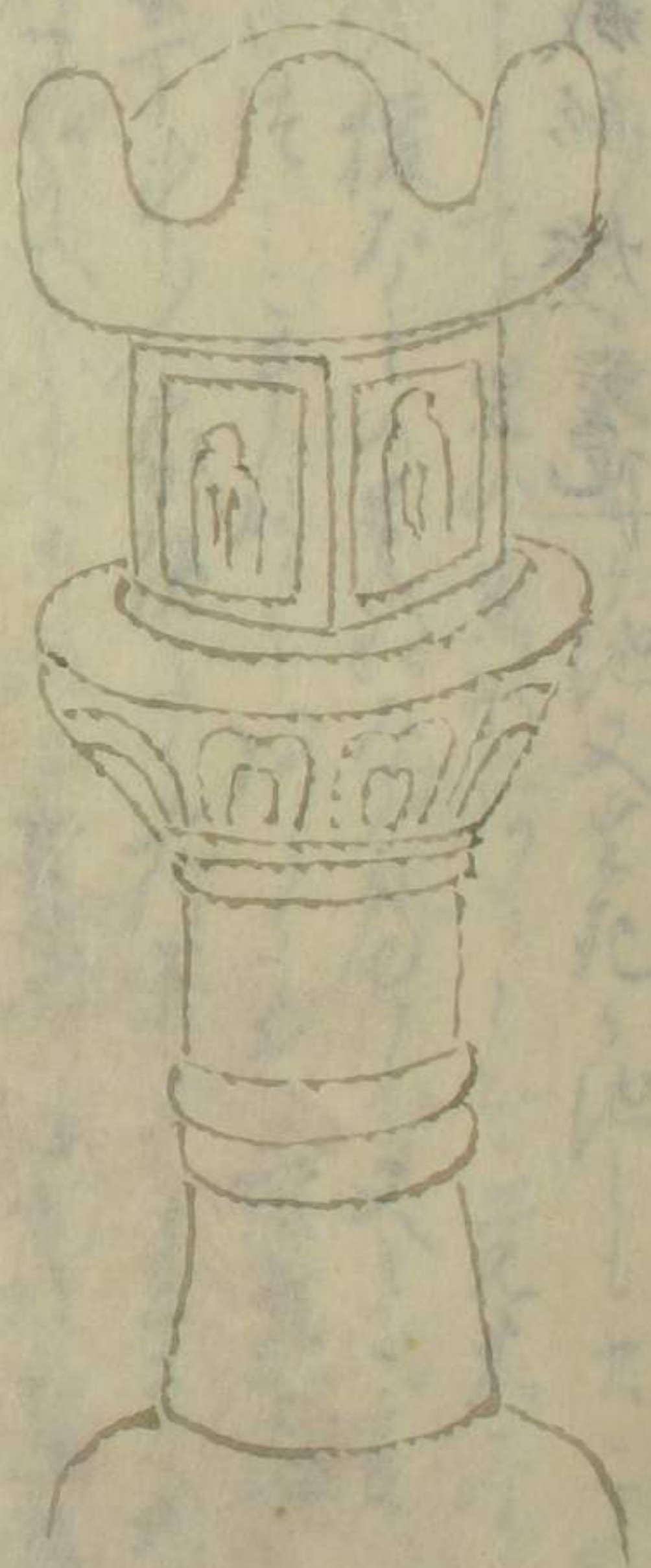
二お山 京物 柘 藤 常 月 月と金と
 武州令河所も 同名あり 古蹟は所くわこ山

のうさ心のうさハハ所の二ふ山なり
 助了獄 又助形山と

山より形形の祐祐あり又殿者のろく助と彫
 たる形り河くさききり水とあふさるる人語
 この水とふめいゆる方とを其の祐域とて山の
 額とてこ乃けりしとて一奇名あり旅人たま
 くはるも心んともれい忽ち去りてふのひと
 かくはるとをうくさるるまのむとび遠流な
 つま

地藏形燈籠

元賽の河原地蔵堂の前より河原より高き人糸火袋
 丈ハ寸持名を尺三寸蓋石七寸半高名はかけん
 トてたて茶人等々愛敬は直ちかハ六むし河原
 のより今東部蒲郷より一石もか井伊屋
 より根石ふか麻より八丁堀をわ原石より一石
 ある石極上のよりけるなるいづれ七百年來乃



このより一石も古維なり形なる東部より河原より
 中よぶがれの枕石よりや石火袋なる河原あり地
 比蔵ちざうより

弘法の伝水 多田備仲の伝のなり方より河原より

生死の池 又麻司池とも比蔵堂のりあり

薺月の池 比蔵堂より十三丁より河原より

御状石

又糸糸名より河原より高き人糸火袋
 上巻く糸より河原より高き人糸火袋
 心と糸より河原より高き人糸火袋

賴朝書狀石



元賽の河原より権現坂とて及節ふる湖水
とやまじのふ石所一の海とてふ

老翁

今よりまひいそぬあ一の海の
ゆつとあをを祀りやう塔

五絵

湖と今むいそりや秋の夏士

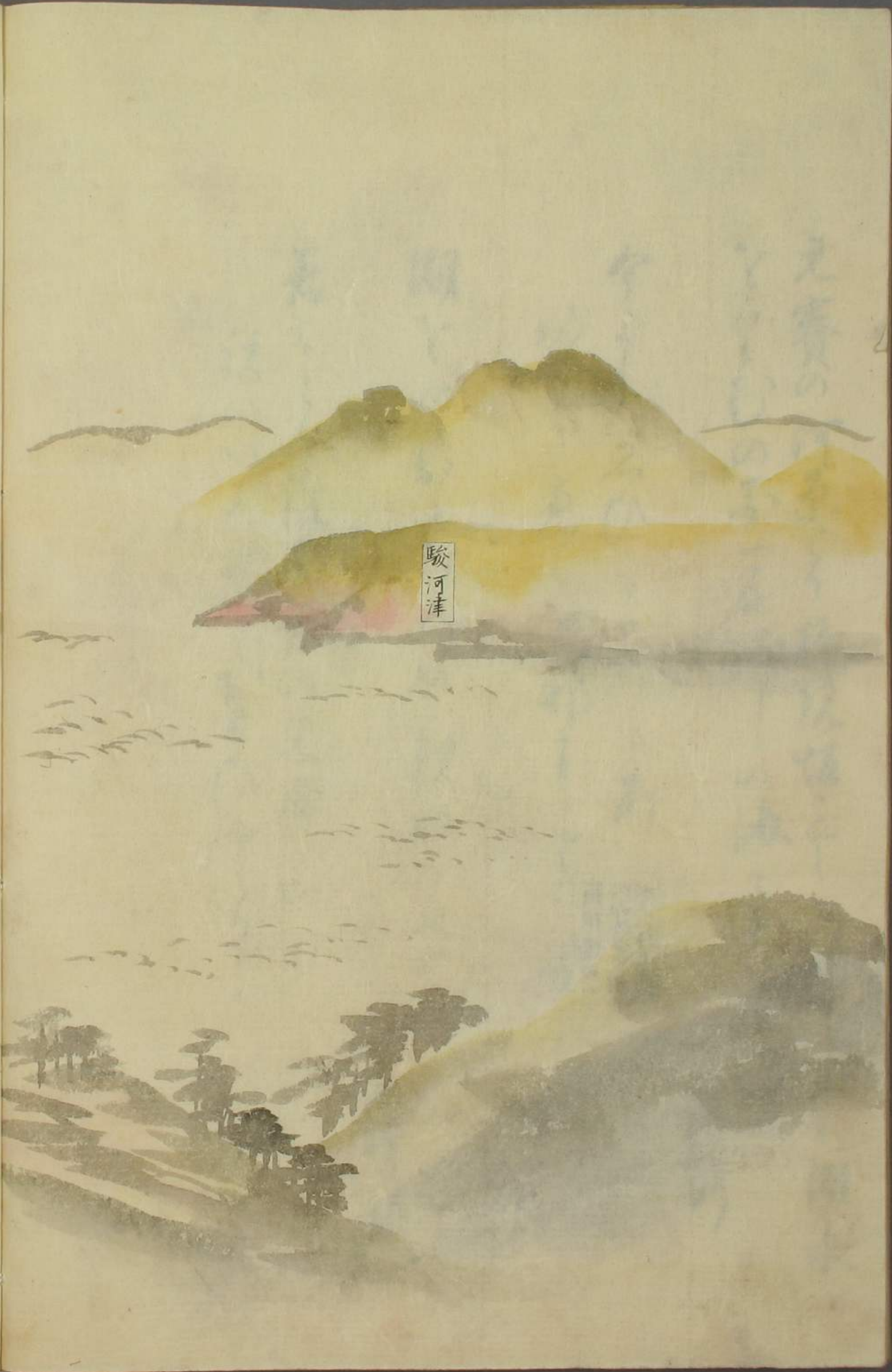
七種及人

若くはく准も智の文庫山

秋のいろあふおりのやう



箱根権現ハ
比山の表湖
水ノ岸ナリ



管根七湯榮九之卷一



山陰力遊録の次巻、四

